



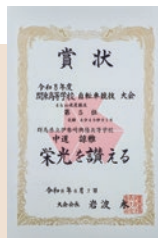
魅力ある高校生にインタビュー

明日へ ジャンプ

No.211

見つけた課題を力に変え 全国の舞台で頂点を目指す

伊勢崎興陽高校 3年 ^{なかみち りょうが} 中道 諒雅 さん



「中学生の時に読んだ自転車競技を題材とした漫画に魅了され、自分も競技に挑戦してみたいと思いました。3年生の誕生日にロードバイクを買ってもらい乗り始めました」と競技用自転車に乗り始めたきっかけを話してくれた中道さんに、興陽高校に進学した理由を聞きました。

「本格的に自転車競技をやりたいと考えていた時に、興陽高校には自転車競技部があり、興味があった農業のことも学べると知り進学を決めました」

入部後は毎日の練習を欠かさず行い、実力を伸ばしてきた中道さん。2年生の時に4km速度競走で県大会・関東大会を勝ち進み、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場しました。

「2年生で出場した時は実力が足りず、予選も突破できず悔しかったです」

結果を次に生かすため、大会後にはレースの分析を行う中道さん。その中である課題を見つけました。

「この種目にはレース中に決められた地点を先頭で通過する『先頭責任』というノルマがあります。スタートが苦手な



プロフィール

なかみち・りょうが
趣味はプロ野球を見ることや野球のスマホゲームをやること。普段の練習に加え、休日は友達と自転車で赤城山などに登っていると話す。高校卒業後も自転車競技部がある大学に進学し、競技をやり切りたいと考えている。

ため普段は中盤で先頭責任を完了しているのですが、上位大会だと後半まで先頭を取れないことがあります」

課題の克服のため体力づくりと練習を積み重ね、迎えた3年生の夏。前年と同様、4km速度競走でインターハイに駒を進めた中道さんに、今大会での目標を聞きました。

「悔いが残らないよう自分の持ち味を発揮し、4km速度競走で優勝したいです。最後にスピードを出し切るために、途中で体力を使いすぎないよう気をつけ、早い段階で先頭責任を完了したいです」

目標を語る中道さんの穏やかな表情の奥には、揺るがない決意が感じられました。